

2014年度未来の京都創造研究事業 研究だより

第1号

本事業は、大学の若手研究者等と京都市の担当部署が協力し合って調査・研究を進めることにより、京都市の政策や事業に活かすことのできるより実践的な研究成果の獲得を目指して、2011年度から公益財団法人大学コンソーシアム京都と京都市が共同事業として行っているものです。

このたび本年度に取り組む6件の調査・研究テーマが決定しましたので、概要をお知らせします。

- ◎指定課題・・京都市が指定する調査・研究課題
- ◎自由課題・・京都市の政策に関わるもので、研究者が自由に設定する課題（指定課題以外）
- ◎継続課題・・昨年度の調査・研究課題のうち、その研究成果を踏まえて、より一層の成果を目指して引き続き取り組む課題

指定課題1 行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（番号法）の施行に伴う個人情報の保護、管理、利用及び活用のあり方に関する研究

テーマ	行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（番号法）の施行に伴う個人情報の保護、管理、利用及び活用のあり方に関する研究
研究代表者	佐伯 彰洋（同志社大学法学部・教授）
研究概要	2015年から開始される、番号法に基づくマイナンバー制度は、地方公共団体が独自に条例を制定することによって、より充実したものとする余地がある。そこで京都市における地域の実情を踏まえつつ、番号法の活用によって解決が見込まれる課題を絞り込み、また市民の利便性と行政の効率性の向上を図るためにはどのような条例を制定することが必要かを検討する。
ひとつこと	効率性向上、扱いやすいシステム開発、情報管理をすべて満足させるという難しい問題に取り組んでいただきます。この分野における条例制定はどの自治体も未着手であるためマイナンバー制度の活用法について国や他都市に先駆けた京都市独自の施策を実現することは京都市の積極的な姿勢を広く示すことにもなります。

指定課題2 都心部地域（四条通、河原町通、御池通及び烏丸通に囲まれた地域及び周辺地域）での商業者等の交流の場づくりに関する研究

テーマ	交流の場づくりによる商業者・市民の育成とネットワーク形成にかかわる実証研究
研究代表者	西村 雅信（京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科・准教授）
研究概要	都心部に蓄積されてきた地域資源の魅力を活かした「交流の場づくり」を通して「地域の価値」の再発見と創造を推進する商業者・事業者と市民の育成及びネットワーク形成を図る実証研究を行う。 具体的には以下の場を実験的につくり、有効性の検証と持続可能な仕組みを検討する。 ①商業者・事業者と市民が交わり、つながる『学び』と『ネットワーク形成』の場 ②空き店舗や大型店と魅力的商業者が交わり、起こす『マッチング』の場 ③関心のテーマで商業者と若者、アーティスト、デザイナーなど多彩な市民が交わり、起こす『文化創造』と『コミュニティ形成』の場

ひとこと	京都ならではの「地域の価値の創造と発信」、「課題解決のための持続的な仕組みづくり」と担い手育成」に期待したいです。京都らしい文化・商業の継承・創造による都心地域の活性化は、京都市全体のブランド力を向上させ、集客増に貢献すると考えられます。
------	---

指定課題3 外国人留学生の大学卒業後の就業に関する動向の分析と自治体、企業及び大学における支援方策に関する研究	
テーマ	外国人留学生の大学卒業後の就業に関する動向の分析と自治体、企業および大学における支援方策に関する研究
研究代表者	石原 一彦（立命館大学キャリアセンター部長・政策科学部教授）
研究概要	立命館大学を中心とした京都の外国人留学生、企業への調査を通じて外国人留学生の就業に向けた意識と行動を明らかにする。具体的には、留学生に対しては日本企業への就業希望動機や将来展望などを調べ、企業側には、留学生に求める能力、採用への期待などを調べる。これらに対して分析をおこない、留学生への就業支援策や企業との能力開発プログラムを、大学、企業、行政の協働によって検討する。
ひとこと	いくつもの大学に聞いたところ、外国人留学生の卒業後の進路把握だけでも精一杯とのこと。卒業してもできるだけ京都に残ってもらい、先輩として引き続き活躍してもらえそうな仕組みを協力して創りたいと考えています。

自由課題1	
テーマ	京都市郊外の市営住宅とその周辺住宅地における空間構成と変遷について
研究代表者	政木 哲也（京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科・博士後期課程）
研究概要	京都市の郊外に多く分布する市営住宅とその周辺地域の関係性について、山科区、伏見区の市営住宅団地のいくつかをフィールドと設定し、主に屋外空間の利用状況と周辺住宅地との連続性を明らかにする。そのためには①団地と接する建物の外観、②団地内のオープンスペースの使われかた、③敷地境界の状況を現地で記録・採取する。 今回新たに把握するオープンスペースの利用状況や、周辺となじんでいる様子の調査結果は今後の市営住宅の整備・再編の際に活かされることとなる。
ひとこと	高齢化社会の進展とも関わり、市営住宅の整理・再編は避けて通れない道。研究代表者はこれまで多くの市営住宅と周辺環境の調査を重ねているエキスパートです。市でもなかなか実施できない団地内のオープンスペースのインフォーマルな活用状況の調査などは市の取組を補完する研究といえます。



自由課題2

テーマ	京都市における「フューチャーセンター」を活用した次世代型市民協働政策についての研究
研究代表者	杉岡 秀紀（京都府立大学公共政策学部・講師）
研究概要	<p>課題解決の手法として近年注目されている「フューチャーセンター※」「フューチャーセッション」に焦点を当て、わが国の産・学・公・NPOそれぞれのセクターにおける現況と課題を明らかにする。また京都市の市民協働政策の現況調査によりフューチャーセッションを試験的に実施することで、京都市におけるフューチャーセンターを活用した次世代型の市民協働政策に関する提言をおこなう。</p> <p>※ 組織を超えて多様なステークホルダーが集まり、未来志向で対話して関係性をつくり、そこから創発されたアイデアに従って協調的な行動を起こしてゆく手法</p>
ひとつこと	一部の自治体、企業、大学等で導入されつつあるフューチャーセンター、フューチャーセッションですが、政令指定都市が市全体で取り組んだ事例は無く、初の試みとなります。実験的な取組から生み出される新たな知見に期待が持てます。

継続課題

テーマ	京都市内における住宅庭の環境およびその減少が街区の生物相に与える影響
研究代表者	柴田 昌三（京都大学地球環境学堂・教授）
研究概要	<p>昨年度に得た研究結果をベースに、今年度は市街地の緑を構成する要素の一つである住宅庭の特性および緑の連続性が街区の生物相に与える影響を評価し、その結果に基づき住宅庭が京都のまちなかの生物多様性の保全に果たす役割を示す。</p> <p>具体的には、GISを用いた緑地の連続性・面積変化の解析と、対象地域における生物相に関する住民アンケート、また対象地域内に新たに設定するエリア内での植栽調査結果を複合的に照らし合わせることで、多角的な視点から住宅庭が有する緑のポテンシャル評価をおこなう。</p>
ひとつこと	今年度は「まちなかの緑」に特化した調査と分析をおこない、評価手法の一つとして緑の量的増減が鳥類を中心とする生物相に与える影響を評価することが特徴的です。一軒一軒の家の庭は「点」ですが、点と点がつながることで「線」になり、線が束ねられることで「面」になり、さらには「立体」へと広がることで環境要素も多様になります。生き物にとっては『緑の回廊』が命を育む場。その基盤となる個々の庭の調査に力を入れます。

今後の各研究テーマの進捗状況や本事業のイベント等を、この「たより」を通して皆さまに案内してまいりますので、ご期待ください。多様で京都らしいテーマばかりであるため事務局としても各テーマの進展と報告が楽しみです。

ご興味を持たれたりご意見等がある方は、以下の問い合わせ先までお気軽にお尋ねください。

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 調査・広報事業部 シンクタンク担当

担当：水田（みづた）、矢野（やの） E-mail：mirainokyoto@consortium.or.jp

Tel：075-708-5803